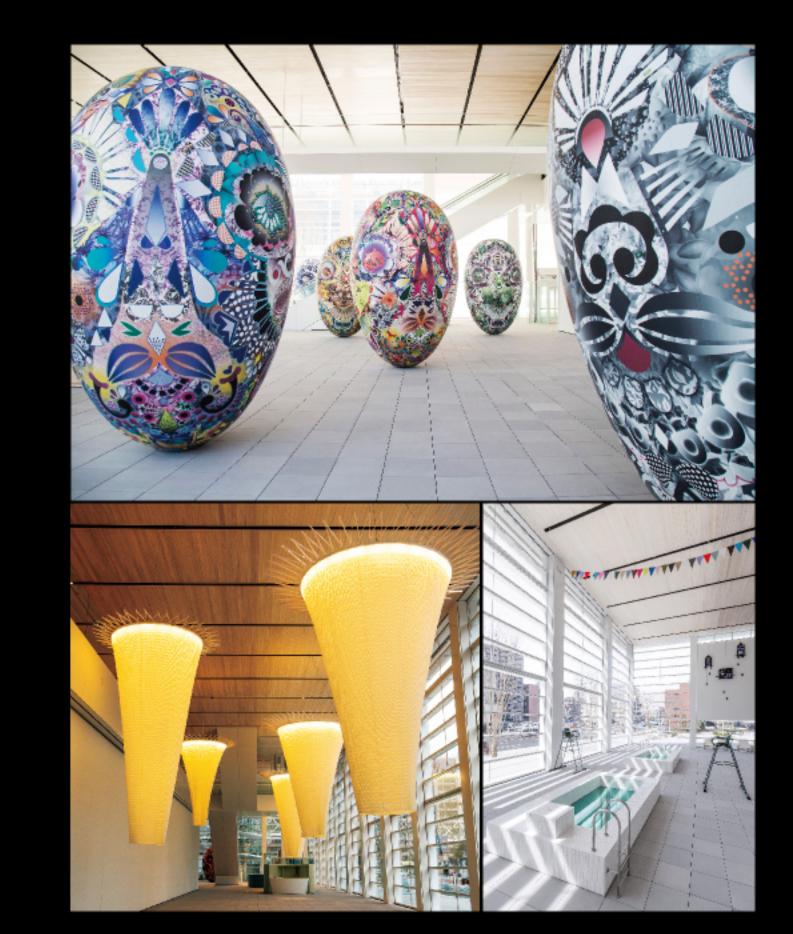


TEA CEREMONY FASCINATION OF ART AND DESIGN



『おおいた大茶会』をテーマに開催される第33回国民文化祭・おおいた2018、第18回 全国障害者芸術・文化祭おおいた大会を記念し、大分県立美術館では、開館当初より親し まれているアトリウム展示をてがけた三人の作家、マルセル・ワンダース、須藤玲子、 ミヤケマイによるインスタレーションに特化した展覧会を行います。本展のために特別に 計画された展示を通してアートとデザイン、それぞれの分野における第一線の活動を ご紹介します。

オランダのデザイン界の貴公子、マルセル・ワンダースは、自身がデザインしたオブジェ クトと映像によって「幻想の間」を創り出します。世界的に活躍する日本人テキスタイル デザイナー、須藤玲子は布のオブジェを浮かび上がらせた「触感の間」を創り出します。 日本の若手現代アーティスト、ミヤケマイは、インタラクティブな展示により、鑑賞者が 作品との対話と反応を楽しみながら思いをめぐらせる「瞑想の間」を創り出します。 開館当初から大分県立美術館が目指す、「出会いと五感のミュージアム」。そして 国民文化祭のテーマである「大茶会」。この二つのコンセプトのもと、五感にうったえ、 人と作品の出会う、センセーショナルな現代版大茶会をお届けします。

上:マルセル・ワンダース(ユーラシアン・ガーデン・スピリット)2015 年 左:須藤玲子(ユーラシアの庭「水分峠の水草」) 2015年 右:ミヤケマイ 大分観光壁《水府 覆水難収・フクスイオサメガタシ》 2015年

関連イベント

アーティスト・トーク

本展を彩るアーティストの三人が、今回のインスタレーションに ついて語ります。聞き手は当館館長新見隆。

日程:6月15日(金)13:30~15:00 場所:大分県立美術館 1階 アトリウム

登壇者:マルセル・ワンダース、須藤玲子、ミヤケマイ

定員:160名

参加費:無料(要事前申込)

ワークショップ② 「石の記憶」

ミヤケマイ氏とともに、アート&デザインの大茶会の鑑賞ツアー をしたのち、聖書などにも出てくる最も古い記述形式である、 石に文字や絵を彫るワークショップを開催します。

アート&デザインの大茶会の鑑賞の記憶や想いを永遠に残る メッセージとして、イサム・ノグチが晩年に愛した宮城県 の大蔵山の「伊達冠石」に刻んでみませんか?

日時:2018年6月16日(土)10:00~12:30 場所:大分県立美術館 1階 展示室 A、創作広場

講師:ミヤケマイ 定員:20名

参加費:2,000円+展覧会観覧券(要事前申込)

ワークショップ① 「さがせ、私の"こいのぼり"」

須藤玲子氏とともに、展示されている"こいのぼり"を 双眼鏡でじっくり見たのち、いろんな布を使って自分の

講師:須藤玲子

日時:6月16日(土)13:30~16:30 場所:大分県立美術館 2F アトリエ

"ミニこいのぼり"をつくります。

対象・定員:高校生以上一般 20 名程度

参加費·材料費:1,000円+展覧会観覧券(要事前申込)

アーティスト・トーク、ワークショップ申し込み方法

参加ご希望の方は、app@opam.jp へ [件名] にイベント名・[本文] にお名前とご連絡先のお電話番号をご記入の上、お申し込みください。 定員に達し次第、締め切りとさせていただきます。

ギャラリー・トーク

日時:2017年6月23日(土)、6月29日(金)、 6月30日(土)、7月7日(土)、7月14日(土)、7月21日(土) 金曜日は 16:00-17:00、土曜日は 14:00-15:00

会場:大分県立美術館 1階 展示室 A

参加費:無料(参加には当日観覧券が必要、申込み不要)

[会場] 大分県立美術館 1 階 展示室 A [会期] 2018 年 6 月 15 日(金)~7 月 22 日(日)

[主催] アート&デザインの大茶会展実行委員会、公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館

[共催] 大分合同新聞社、TOS テレビ大分

[後援] オランダ王国大使館、大分県、大分県教育委員会、大分県芸術文化振興会議、大分県デザイン協会、公益社団法人 日本グラフィックデザイナー協会 大分地区、NHK 大分放送局、エフエム大分、大分ケーブルテレコム株式会社

[協賛] 石川隆道

[協力] 公立大学法人大分県立芸術文化短期大学、オランダ政府観光局、KLM オランダ航空、Museo Alessi、Baccarat、Christofle クリストフル、コスメデコルテ、 ASTER、Olectronica、Pixie Dust Technologies, Inc.、SHISEIDO THE STORE、Venus Laser 株式会社 /studioTED、ウエダジュエラー、 大分県立歴史博物館、大久保文之、大蔵山スタジオ株式会社、株式会社岡井麻布商店、鬼塚電気工事株式会社、カモシカ書店、クウジット株式会社、 幸兵衛窯、佐野文彦、サンワ工務店、しぶや黒田陶苑、株式会社スピン / studio TED、ソニー PCL 株式会社、株式会社ダイカン、 株式会社中川ケミカル、日田漁業協同組合、藤野芳徳、馬渡侑佑、株式会社ミラクルプロダクツ/studioTED、諸冨京子、山路敦司、和傘工房「朱夏」



平成30年度文化庁 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

公益財団法人 花王 芸術·科学財団

第33回国民文化祭・おおいた2018 おおいた 第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会







〒870-0036 大分市寿町2番1号 Tel: 097-533-4500 Fax: 097-533-4567 JR 大分駅府内中央口(北口)から徒歩 15 分 大分 IC から車で 10 分 http://www.opam.jp





須藤玲子 《こいのぼり》2014年 フランス国立ギメ東洋美術館



2018.6.15 金 - 7.22 国

10:00 - 19:00 ※金・土曜日は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)

大分県立美術館 1階 展示室A

〒870-0036 大分市寿町2番1号 Tel:097-533-4500 Fax:097-533-4567 JR 大分駅府内中央口(北口)から徒歩 15 分 大分 IC から車で 10 分 http://www.opam.jp

[観覧料] 一般1,000(800)円/大学・高校生500(300)円

()内は前売および20名以上の団体料金 ・中学生以下は無料 ·大分県芸術文化友の会 びびKOTOBUKI無料(同伴者1名半額)、TAKASAGO無料、UME団体料金 ·障がい者手帳等をご提示の方とその付添者1名は無料 ·学生の方は入場の際、学生証をご提示ください。

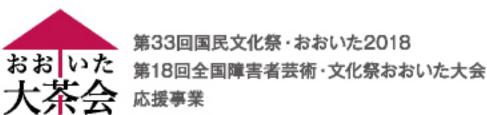
[チケット(前売券・当日券)販売場所]大分県立美術館、 iichiko総合文化センター 1F インフォメーション、 大分合同新聞社本社受付・同プレスセンター、 TOSハウジングメッセ、トキハ会館 3F プレイガイド、 豊後プロパン「ビートパワー」、エトウ南海堂、 大分市府内五番街商店街振興組合、大分県芸術文化振興会議。

ローソンチケット(L82006)、チケットびあ(P769-041)

大分県職員消費生活協同組合、











マルセル・ワンダース

マルセル・ワンダースは 活動するプロダクト&イン ディレクター。アレッシィ、 KLM など数々の企業との アットやアンダーズなど 内装など、1900を越 先鋭的なデザインを マルセルは、デザイ が結びつき、人の温もり 以来の伝統を蘇らせます。 から離れ、いにしえの詩と幻想 復活させます。

Marcel Wanders アムステルダムを拠点に テリアデザイナー、アート バカラ、クリストフル、コーセー、 コラボレーション、ハイ ホテルや商業施設の える数の仕事を展開し、 発信し続けています。 ナーと職人と使う人々 を形にする「ルネサンス」

20世紀の冷たい工業主義

とロマンスを、今日の生活に

臼杵に漂着したことを

きっかけに発展した日蘭

交流の歴史からヒントを

得て、両国の友好の姿

ンダの静物画に描かれる

大分県立美術館では 2015 年春の開館にあわせて、1 階アトリウムで来館 者を迎える卵型のバルーン《ユーラシアン・ガーデン・スピリット》を制作。



マルセル・ワンダース ≪ユーラシアン・ガーデン・スピリット≫ 2015年

作品化。華やかなバ ルーンの柄は骸骨のよう に見え、17世紀のオラ

骸骨、すなわち「ヴァニタス」(死を想うこと)を表しています。大人も子ども も、自由に触れ、花々や虫たちを見つけたり、記念撮影をしたりと、思い 思いに楽しむことができる出会いのアートです。

本展では、過去27年間のマルセルの仕事のなかから、国際的なブランド とコラボレーションした商品や、最新の映像作品を紹介し、訪れる人々を 魔法の旅へといざないます。



マルセル・ワンダース 《サーカス》2016年 アレッシィ・ミュージアム蔵

イタリアの食器メーカー、アレッシィの《サーカス》(2016年)は、楽しい サーカスの世界とキッチンツールとしての機能を組み合わせた、イマジ ネーション豊かな限定商品。ドイツのベビーカーメーカー、サイベックス からは、シックな大人のテイストと、子どもが喜ぶポップさを合わせ持つ 育児用品を紹介。

日本の化粧品メーカー、コーセー では、2010年からコスメデコルテ AQMWのパッケージを、2011年 からは毎年、限定フェイスパウ ダーをデザイン。現在は店舗デザ インや広告ビジュアル等も手がけ ています。女性の絶えまぬ生命力 と美を賛え、常識をくつがえす斬新

なデザインを提案し続けています。



マルセル・ワンダース コレクション 《コスメデコルテ フェイスパウダー》



マルセル・ワンダース 《Virtual Interiors》 2013 年~

パーチャル・インテリア 映像作品《Virtual Interiors》(2013年~)では、世界のデザインシーン で活躍するマルセルが内に秘めた、哀愁に満ちた儚いファンタジーが、 ダイナミックな仮想空間として視覚化されています。

マルセル・ワンダースの驚きと感動、めくるめく夢の世界へようこそ。 ※展示作品の一部は予告なく変更される可能性があります。



するテキスタイルデザイ ナー。1984年、株式会社 「布」の設立に加わり、現 在は取締役デザインディ レクターとして、日本の 伝統的な染織技術から 現代の先端技術までを 駆使した布づくりをおこ なっています。2006年、 マンダリンオリエンタル 東京のテキスタイルデザ インを手がけ、毎日デザ イン賞を受賞。これまで 制作した布地の数々は、 ニューヨーク近代美術 館 (MoMA) をはじめと

Sudo Reiko

須藤玲子は、日本を代表

した世界各国の美術館に永久保存され、今までに無い独創的なテキスタ イルの達成により、現代デザインをリードしています。



須藤玲子 《ユーラシアの庭「水分峠の水草」》2015年

術館 の新設開館にあわ せて、《ユーラシアの庭 「水分峠の水草」》を制 作。湯布院と玖珠の境と なる水分峠は、西の筑後 川と東の大分川の分水 嶺であり、峰々から集ま る水が豊かな河川の流 れをつくってきました。 この水分峠の清水に浮 かぶ水草をイメージし たテキスタイルによる

2015年の春、大分県立美

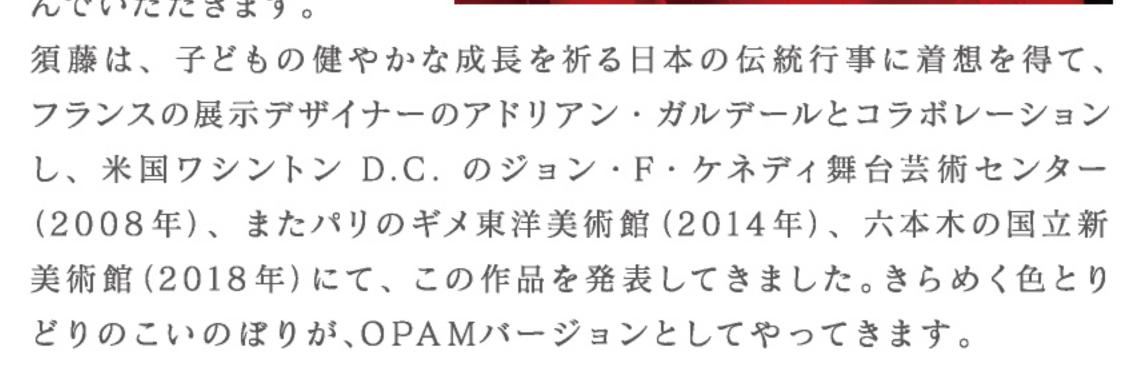
シャンデリアが、坂 茂のOPAM建築の目玉でもある巨大アトリウム

の空間にほんのりと輝き、来館者をやさしく包み込みます。そこには 須藤が思いを馳せる原始の自然への、またユーラシアの森羅万象に 対する畏怖と恋慕が表されています。

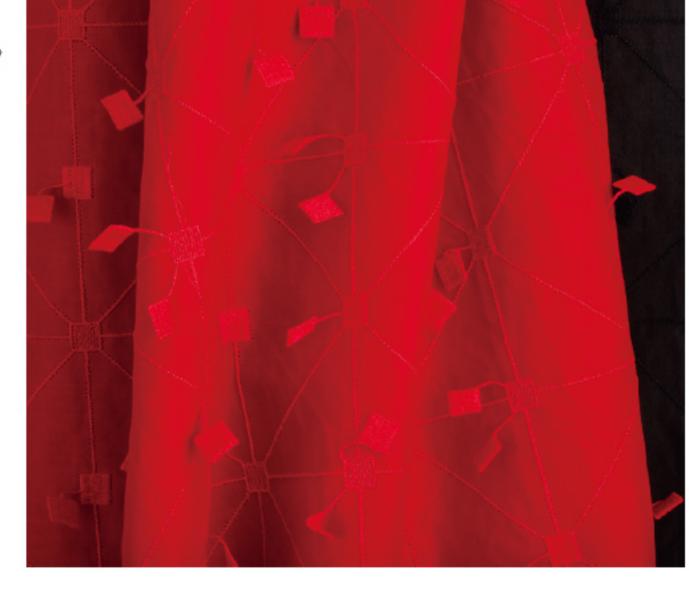


- : 須藤玲子 《こいのぼり》2014年 フランス国立ギメ東洋美術館
- 台:須藤玲子 《スイング・□(しかく)》 撮影: Sue McNab

本展のインスタレーション では、須藤玲子がデザイン した約80匹ものこいの ぼりが、展示室の空間を ダイナミックに泳ぎ回る、 驚きの幻想空間に入り込 んでいただきます。



ぜひ五感を刺激するダイナミックなインスタレーションを体感して ください。



Duolun Museum of Modern-Art、POLA美術館、森美術館、 世田谷美術館での展示及びワークショップのほか、村越画廊、壺中 居、Bunkamuraギャラリーなどで個展多数。銀座メゾンエルメス、 慶應大日吉キャンパス来往舎ギャラリーなど、企業や大学でもサイトスペ シフィックなインスタレーションを手がける。2008年パリ国立美術大学 大学院に留学。『膜迷路』(羽鳥書店/2012年)、『蝙蝠』(2017年)など 4冊の作品集がある。2018年 SHISEIDO THE STORE のショー ウィンドウのアートディレクターに就任。京都造形芸術大学客員教授。

表する。大分県立美術館 (OPAM)、水戸芸術館、Shanghai



ミヤケマイ 《必然》2013年 写真:繁田諭

現代の大茶室

本展では、希代未聞のインタラクティブな大型の インスタレーション作品=「茶室」が OPAM の 展示空間に現出します。感覚に訴えるインタラク ティブなこの展示は、鑑賞者が何かを汲み取り、 行動することによって出会う時間の流れや、人間 を模倣した一本の筒としての迷路のような空間 を創り出します。また、「茶室」は、それを構成す る五行(*)を一度分解し、鑑賞者の体験を通し て脳内で再構成してもらう空間となります。ここ にしかない、驚きと五感を刺激する作品との出 会いをぜひ体感ください。



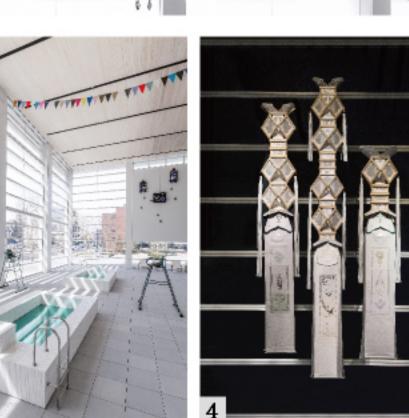
*陰陽五行。自然界に存在する物質は「陰」と「陽」の要素から成立すると唱えた「陰陽説」と 自然界に存在する物質は「木」「火」「土」「金」「水」の五元素に由来すると唱えた「五行説」が 一体化し、古代中国で成立した、茶道とも関係性の深い、自然哲学の基礎概念。





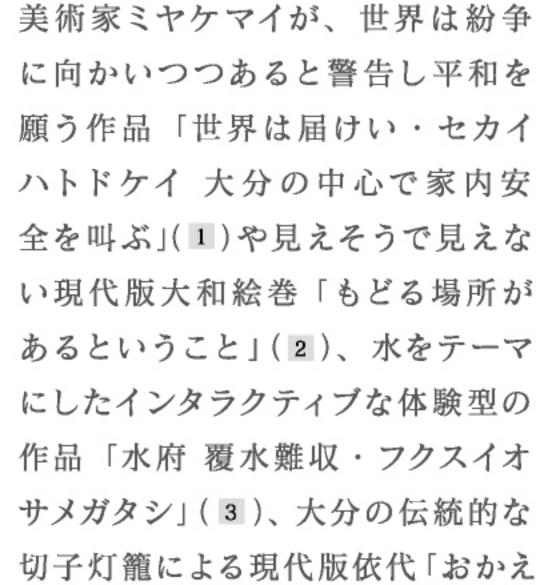
日本の伝統的な美術や工芸の繊細さや奥深さに独自のエスプリを加 え、過去と現在、未来までをシームレスにつなげながら物事の本質を 問う作品を制作。媒体を問わない表現方法を用いて骨董、工芸、現代 アート、デザインなど既存のジャンルを問わず、天衣無縫に制作を発





大分観光壁

「観光」とは、「光を観て、地域の命 に出会う」こと。



りなさい。」(4)など、大分の文化風土をテーマにした大型のインスタレー ションを大分県立美術館(OPAM)の1階アトリウムに展開しています。



